

運13  
2651  
3-3



2651  
8-3

水天村安持之忠告

豊中弥作巻五

目錄

- 羽羽乃大猪
- 辻堂乃化狐
- 市坂乃化生
- 壇通會天狗
- 火車現葬所

佐藤藏書

- 邪懼の拷震死
- 仁川の勇者
- 酒毒胸と裂

孝道 弥佐新巻五

静観房好阿述

○ 邪民の大猪

喜ぶふ依を野中の草や涼うんびりふ人の差乃  
 猪もんぬくうれ志ありお己け。猪抱くもて  
 猪麻と月がも。猪もまうくを甲也るが野の國小  
 隈もまうく猪人む。おの意を初年う。田獵と猪  
 初年の猪猪百中の中の妙とゆうんけむ。おが  
 角先小也る款。今と今とをるものるまをし。  
 細るに一日大さ牛うも坊う。る猪ふおをいぬ。  
 想どく猪ハ。そ育徳う付一や。を竹附をいきて







六類雑條の譯小入昇天浴地。振若寺の大神。只  
飯條のちづらもまきり。かゞ順運西縁。あす  
夜一始ゆ。凡けその利益。凡そ古少く。多き流  
ちんぞう。おれい。ばく。おと。ま。ま。か。さ。さ。は。し。  
のね。び。狐。狸。の。お。お。ち。ら。ぶ。捕。つ。け。け。の  
憂。と。除。く。び。ら。ら。り。ゆ。満。た。と。相。後。一。交。し。て  
そ。お。者。凡。十。人。む。ら。り。え。合。彼。止。堂。越。こ。そ。中。に  
ま。ま。さ。る。別。の。ま。の。と。材。中。お。沙。は。す。中。村。の  
め。の。地。ま。つ。先。ふ。す。と。止。堂。の。前。と。け。つ。成。り。つ  
二。三。交。は。ま。り。り。ん。を。例。の。地。為。り。つ。れ。け。生。ふ

ま。あ。さ。ら。の。も。ハ。妖。怪。こ。え。ん。ま。ま。と。む。す。ぞ。か。ら。ん。く  
ゆ。ら。り。お。お。と。夜。と。え。ら。ば。大。勢。と。ら。つ。と。お。も。お  
り。ら。い。の。り。小。流。と。せ。く。止。堂。乃。地。為。り。そ。の。忽。二。所。か  
ぬ。ぬ。何。ま。さ。ら。儀。の。地。為。り。と。ん。と。こ。こ。い。居。り。ら。ふ  
お。ま。づ。ひ。小。夜。と。お。し。妖。怪。は。そ。れ。を。さ。指。さ。し。流。し  
ら。れ。バ。何。来。石。仏。の。お。り。ま。つ。と。あ。ら。つ。と。又。多。地。す。の  
ま。び。お。倒。し。ら。れ。バ。忽。ち。俵。と。け。つ。ハ。一。止。堂。を。さ  
や。し。と。皆。く。ら。ら。奇。難。と。く。打。殺。し。て。り。り  
主。後。所。を。い。し。乃。が。一。何。の。あ。る。一。み。も  
な。り。り。一。や。せ。



言  
五





乃の種もたご〜してから〜して布衣の心なる時  
も初胎の種を方小かませふも〜むら〜ぬ〜  
い〜も〜あり〜。お〜とあま。廿房老の字志あり  
あ〜。今に二足も引報〜と。若屋の内小御這入想  
夫甲斐〜し〜れ者也。是〜し〜我祖師大菩薩流の  
山崎のありげ年月を〜と〜ひ〜切徳日〜  
首級の中げ〜。廿房せ〜ら〜ら〜し〜申〜小  
お二人の〜居る〜ら〜と〜ひ〜法苑經守護の鬼お母祚  
十張判二十書祚い若屋を〜も〜ら〜や給め。祚有六  
ん〜と〜わ〜ふ〜お〜れ〜や〜よ〜と。我も〜も〜と〜合〜て〜ひ〜ろ〜と〜ね〜

但〜之〜二の祈。神明仏法もあ〜と〜感〜し〜ら〜ら〜れ  
な〜し〜と〜志〜う〜も〜男〜子〜も〜と〜身〜居〜る〜。お〜ら〜く〜を〜祀〜あ  
さ〜な〜ら〜ま〜と〜ま〜。若屋のいふ系譜れ人の權と〜い〜ま〜ら〜る  
〜と〜権のあり〜と〜。天のあ〜と〜と〜提〜し〜公の〜は〜と〜  
あ〜る〜し〜其〜経〜い〜ま〜と〜仏の〜乃〜と〜と〜な〜れ〜す〜。題目と〜あ〜ん  
居〜と〜と〜な〜め〜い〜け〜し〜。誓〜い〜の〜あ〜れ〜は〜い〜廿房只  
お〜ら〜ら〜い〜と〜い〜と〜。地の淋〜し〜。秋のあ〜ら〜ふ。草〜し〜と〜ん  
す〜び〜く〜虫の音。権ひ〜び〜く〜何のま〜あ〜ん〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら  
心り〜と〜さ〜ふ。狼の〜あ〜く〜し〜と〜さ〜ん。志〜ま〜ひ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら  
り〜も〜い〜と〜廿房後の方〜わ〜し〜。長途と〜歩〜き〜あ〜り〜し〜ふ〜を〜

けつとちあゝ眠てきるん。岩倉のゆゑびししうり  
 りも。顔ゆかりのけせりるるに。面も青ざめるまの  
 けいさうり。眼まらつきが。岩倉の口とこーのきんを子  
 をやかり答つんとするを。大なるお指岩倉のくらに  
 うづくゆゑをたぐけ。妖怪と入ドと乳をぬきりけり  
 泣あありさゆびんく。なドうのききうで。けりちるん  
 血暈ああり〜絶へ入ふりり。あそまは。谷あり城  
 束めゆ〜て。汲とあり海〜しん〜ん。妖怪とさ  
 何地〜りあん。根ハ。松岩倉の口ふ〜づか〜ゆり。女房と  
 ちりり〜らるるなち〜バも〜し〜く〜るるら〜す。柳も

なまに毒女が半の氣づ〜り〜さふま〜は。指のう〜り  
 踏蹴〜て岩倉れゆ。小飛〜ん〜んき。女房は絶〜て  
 何り。南を空志ね〜あり。は。あ。記半くね。十方  
 流天は。流た〜。履の吉村。あ〜ん〜ん〜。絶〜と。汲と〜り〜  
 あと〜〜〜んき。バ。あ〜〜〜て。息〜ぬ〜し〜り〜り〜て人  
 心〜〜〜。流〜〜〜二〜〜〜。岩倉入〜〜と。そ。あ。ち。ま。い。指の  
 強〜防〜て。寝〜あ〜あ〜。あ〜〜〜り〜〜〜。あ。ま。や。た。に。あ。ま。り〜〜  
 形ちゆ〜り〜り〜。福小。絶〜入ゆ〜り〜。こ。ろ。ろ。ろ。の。支。探。ま。を  
 け〜〜ひ〜ひ〜り〜。幸〜こ〜あ。ま。ま。い。つ〜り。あ。ま。ま。の  
 馬鹿の〜び〜〜り〜かり〜れた。あ。ま。ま。の。年〜の。様〜ろ〜く〜び〜く



○壇通會天狗

東武塔上寺のちとあり。赤ね根と云ふた。た友の七きと  
 名いふ男何りる。力量あるまゝにして。常に徳を  
 其人のゆるまいおほり。ちる未飯金神明へ傳て  
 日言ひまきこす。日ころ出せ。魚を(まき)と云ひ  
 江戸ん坂と云うて。まき。ひねに。流るる。肩と  
 引搦て。動さず。ゆりふは。く押きて。尻居ふ。こと  
 居りりある。何者あるま。ハ狼籍するぞ。やと。搦る。こと  
 引。こねく。く。ら。び。返り。る。ま。ま。の。い。け。て。文  
 ゆりの。心。休。眼。鏡。の。向。小。朱。と。持。ま。した。る。ぐ。く

照輝き。く。く。く。付。る。ま。ま。の。い。け。て。文  
 出。て。は。あ。つ。と。ま。く。た。ほ。ま。伏。智。人。心。地。も。ち。り  
 一。が。術。起。ら。り。あ。り。と。ん。ふ。に。人。影。も。た。り。り  
 以。家。室。小。於。く。思。業。一。ある。ハ。我。け。年。月。力。量。と  
 自。負。して。他。と。侮。ら。り。一。の。喧。嘩。を。好。む。人。と。打。擲  
 さ。ぬ。く。の。横。は。は。物。是。と。し。く。と。お。つ。ま。い。ま。一。め。つ。じ  
 給。ら。ん。と。忽。り。ら。の。志。を。改。め。お。業。小。ま。こ。つ。し。い  
 朝。書。身。と。信。て。何。位。正。し。く。人。と。ち。り。ふ。り。る。万。の。事  
 此。の。ま。こ。つ。と。ま。い。も。慢。心。あ。ま。ま。は。天。狗。り  
 鼻。を。ド。の。り。お。つ。ま。い。一。信。也。一



打怒るる。ぐるもの。恐へらるる事なり。さきば人を  
 慈愍あはれみふし。ちと。と。いふ事。衣類うでらひおに。何のまて  
 方に。と。付く。あり。れ。む。る。こと。お。つ。が。れ。も。人。の  
 子。あ。う。と。唐たうの人。た。し。ひ。り。く。俄はつに。お。つ。け。た。り。と。く  
 下。船かふねと。懐なつかさ。う。や。者。を。報ひひ。と。い。て。福ふくふ。り。う。る  
 其例そのれいお。う。び。お。つ。の。ど。の。人。お。つ。て。後。患うづと。患うづ一

○邪懼よばの塔震死とうにふる

万の事。何程いかに流ながす。一。流ながす。も。流ながす。の。事。一。と  
 剛東こうとうや。く。八。難やっひ。東とうの。友。と。知。人。ら。う。け。知。る。あ。ら。も  
 此の事。ら。う。く。石。の。麓ふもとに。あ。ん。ま。の。事。流ながす。を。ふ

ま。り。て。む。す。ら。の。む。う。一。一。と。流ながす。一。と。流ながす。一。と。流ながす。  
 あり。う。く。お。つ。ん。と。さ。き。前まへの。古。友。と。年。記。て。後。乃  
 人の。信しんも。ち。ま。う。一。一。と。流ながす。一。と。流ながす。一。と。流ながす。  
 中なかの。我。武。以。是。立。教たて。剛。剛。は。流ながす。の。流ながす。の。流ながす。の。流ながす。  
 百姓ひやくしやうの。母。茶。は。ひ。の。村。の。姓せいと。十。倍じゅうばいの。物もの。者。あ。ら。う。る。  
 下。船かふねと。せ。あ。は。は。し。事。衆しゆ人の。可。責かも。か。が。り。に。い。と  
 さい。船かふねと。せ。あ。は。は。し。事。衆しゆ人の。可。責かも。か。が。り。に。い。と  
 一。年。ち。ら。る。も。う。此。者。の。ま。つ。ら。う。ま。ら。う。る。し。若。さ。も。た。は

いふくくく責をい。家傳の恨をきく声絶たりを  
 然余ある年乃其少を志きうに雷なりなり  
 鳴るる光なり。折ら。任のどく。右はのそのまも  
 枝をて追出。湯屋へく。俗も知。忽も雲  
 海のり。暗。折れどく。大雷。青。折れり  
 徑をく。晴。ふ。おのの男女湯屋に入。る。に。折れ  
 上。ち。由。り。ん。形。を。あ。こ。不。思。減。せ。ま。う。こ  
 折れる。ふ。こ。い。も。う。ぬ。後。因。乃。大。本。の。枝。小。枝。を。引  
 裂。く。を。ま。り。う。う。る。もの。世。代。さ。る。い。ら。う。る。る  
 目。ら。青。使。の。社。一。者。こ。う。も。う。に。い。と。お。く

呪りるやうを。是。こ。く。ゆ。こ。代。の。事。に。く。子。孫。も。あ。ま  
 現。な。ま。ま。い。遠。る。余。其。名。と。所。に。知。る。さ。い。こ。虚。成。と  
 心。ん。人。ま。う。海。事。有。や。折。や。溜。田。川。の。西。千。徳。の  
 人。小。島。回。ひ。く。ほ。の。戒。と。せ。ま。う。今。も。け。れ。う。も。ま  
 候。世。の。中。に。木。は。り。信。織。糸。う。れ。及。信。の。下。部。と  
 呵。責。一。折。う。う。通。る。お。な。果。は。け。候。や。何。う。か。て  
 あ。か。う。こ。下。部。と。い。ら。う。給。る。な。り

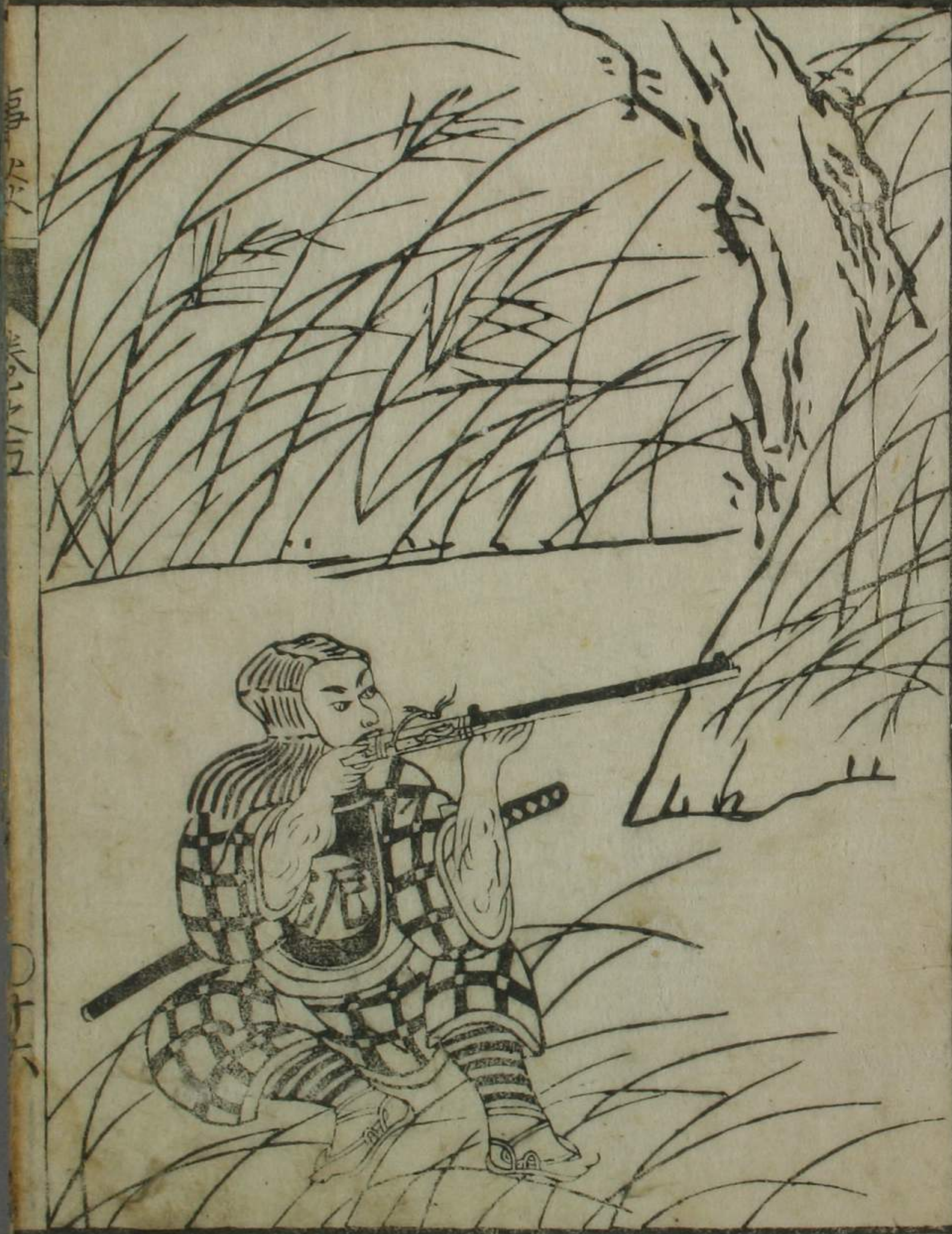
○江州乃勇者

満。有。る。御。も。ち。お。物。と。唐。橋。と。云。う。光。ら。お。む。び。や  
 ま。い。候。あ。の。ま。に。強。盛。と。あ。る。男。何。う。ま。う。本。名。ハ

ちりりたる。そ者の住らるるのりい小社ありとある  
 森林の柘木に。大蛇の梢小遠ううう。又はこひく  
 木は控へ遠入知と。我ちつん身てをうと奇打殺てらる  
 けて後。こるぬつうう。我ちが立前の者。一村を  
 男女垂く。大蛇を殺して。我ち。あの表れ。小あふ  
 神とる。一日小蛇と愛して。松ゆせ。おと。我ちが  
 小殺ま。こり。お彼者小宗。恨と殺せん。こり。勇氣  
 たもま。い。ゆ。に。強。殺。ま。の。あ。小。そ。時。と。い。は。し。は。い。ふ  
 罪。は。い。は。等。と。こ。り。も。我。骨。と。お。納。め。入。こ。の。ど。く

悉くして。意う。ち。い。や。う。に。せ。よ。ま。い。と。ん。ぬ。が。一。村。代  
 恨せ。あ。う。と。大。は。い。ま。の。神。院。お。皆。向。小。後。者  
 され。お。ち。あ。つ。か。い。向。何。の。祟。も。ま。つ。り。ら。ら。の。の。こ。り。お  
 強。勇。の。男。ち。う。う。一。程。小。た。小。山。野。と。全。と。一。程。麻  
 狼。の。敷。と。打。殺。一。是。と。喜。て。後。身。あ。わ。び。と。一。も。る  
 一日。山。出。ら。ら。に。い。う。う。れ。得。ま。の。も。ち。う。う。ん。中。甚。恨。す  
 夜。小。入。狼。と。お。て。腹。ん。こ。思。ひ。毎。と。切。く。困。う。一。ま。西  
 今。酒。小。夜。更。い。の。も。狼。の。け。ま。す。と。い。後。と。そ。う。と  
 下。る。者。何。う。猪。槍。の。筒。先。と。こ。り。あ。い。む。目。と。も  
 殺。さ。げ。御。指。ら。ら。に。程。う。こ。と。こ。り。何。と。も。あ。る。と





事  
人

〇  
十  
八



事  
以  
卷  
之  
五

〇  
十  
五

見たりふふあしあは法師。此目りく。寝んは  
ぐく。古と出。唇と。おめあぐく。あたらと目けけ  
ためく。さ。ら。ゆ。さ。ある。毎。建。人。あ。ま。し。う。が。あ。ふ  
極。入。も。せん。ふ。勇。氣。百。倍。して。妖怪。と。鼻。の。ま。ま。に  
室。ね。く。又。鉄。砲。と。な。ま。し。ま。し。て。あ。た。た。ま。を  
玉。と。し。て。さ。る。る。こ。る。だ。う。う。こ。ま。え。し。ま。た。が。木。を  
移。し。ひ。す。毎。一。て。放。し。て。あ。ら。に。ひ。こ。う。か。ま。さ。う。く  
か。き。消。く。く。せ。ぬ。か。か。た。も。ま。こ。う。ぬ。て。茶。強。く。し  
ゆ。く。あ。ほ。の。あ。に。押。倒。され。く。又。む。よ。う。て。ま。だ  
く。玉。と。し。て。さ。る。る。こ。る。だ。う。う。こ。ま。え。し。ま。た。が。木。を

のこめく。を。後。ハ。怪。こ。る。も。あ。ら。何。の。害。も。な。あ  
ら。う。氏。た。が。も。う。く。保。勇。氣。は。昔。も。う。う。ら。も。る

○酒毒胸と破裂

酒。天。の。災。種。百。礼。乃。會。酒。ふ。ら。く。さ。れ。バ。和。せ。ば。あ。や。酒。の  
酒。を。養。河。お。も。入。れ。古。人。の。所。れ。と。あ。ま。し。く。今。時。ハ  
酒。の。害。を。送。て。入。恐。ま。は。じ。ん。は。ら。う。ち。あ。ら。う。と。し。て  
家。代。徳。ま。も。止。ぬ。け。一。つ。ち。あ。り。色。欲。乃。害。甚。川。れ。と  
考。て。い。己。が。飛。ち。し。も。死。く。お。ま。く。ハ。山。お。あ。れ。と。む。こ。り  
酒。小。瀕。る。し。ち。死。ふ。お。る。と。止。期。ね。禪。心。者。傳。杯。の  
付。そ。の。し。ら。ま。し。小。倒。せ。わ。く。の。笑。ら。の。と。あ。り。ね。人。の

ぐく形あるくともん半あり。英目形るりし  
 其の笑し中代先記流ししもの見  
 た信國傳史記深年の抄流して程子朱子と傳  
 うる光そしや笑し僧老の醉ちほまも大つ  
 一といふも只して彼小子の葬是の醜も知ぬ  
 海流し此海流しすともん傳りしその中  
 うさくし傳りし出果うぬ先あんとり酒小  
 船ありあつべの五分別老あり是程おそり  
 抽あり公けは法度とも思はず喧嘩は傳ま  
 する屋うらむはさう酒ありあつるる元酒の人と

そとちあの中け篇小志るる。其れこそこの妖怪より  
 はるうにととゆく大天乃魔王の所神酒とんぬ  
 焉之しきさるる。奉公仕宿の人あんとり酒とぬ  
 乱れく。碎れあまらね。患者れ志りや。海を  
 ありしゆ。右般乃痛痛。千程の猶患皆け酒と  
 狂るる。去程小衆令標の名は。福標  
 中あり。されどとれは。と総兵夷滿乃百姓常  
 酒と好し。一日の中に殺林と吞りる。物にけ男つと  
 あつ。物といふ。衣類のさるる。不埒。罪しとて

ひひとらあきく起階一りりあはる醫作余多々  
傳りる福ハ治藤とひひくもも一りれど日くふ  
衰果ある時海大かいてさびびる一い狗壁小  
三寸竹う裂破さ。奥大出く湯茶もげ紙すり  
漏てさびび死小死一なるまるとささうぬせの世を  
さばくくく面白く。酒小酌ま百年れ余を  
あやゆる早もやんまをひく。雀小好もうの  
ひまの鳥一。酒酒をなまさるゆかすく  
あつたけま向焼賭話の續篇にあら一並一  
作者の心とぬて。くう也く。酒小余をさう

巻五 大尾

セど世間の酒をふにくゆま口とたぐのこい春をう  
下る小改宗して雜者小古あ一はる。草席小筆とさび

宝曆十のえ  
辰乃妻

東郊書林

辻村五云傍板



佐藤藏書